# 第25期　第7回常任理事会議事録

**日　時**：平成元年4月24日（月）13時30分—17時00分
**場　所**：海洋気象部会議室
**出席者**：浅井，岡村，河村，村上，木田，能登，中村，古賀，荒川，竹内，松野

**議　題**

A．報告事項

1. 第25期第6回常任理事会議事録は一部修正の上承認された．
2. 各委員会報告

「庶務」

主なものは次のとおり．

ア　第24回国際海岸工学会議の後援依頼．

イ　平成元年度技術士第一次試験の実施案内．
　　試験日　10月15日

ウ　国際太陽エネルギー会議1989年
　　開催期日　1989年9月4～8日

「会計」

ア　3月分の収支について，資料に基づいて報告があった．

イ　会計担当理事から4月21日に行われた会計監査について，適正に処理されている旨の監事の監査意見が報告された．

「教育と普及」

気象談話室の改正案について報告があった．気象学の普及のために高卒程度の学力で読める優しい議事を掲載する．

「天気」

4月号の「天気」の内容と5月，6月号の解説・論文予定が報告された．

「講演企画」

春季大会の総会の前にトピックとして「暖冬の実態」についての解説が行われることになった．

「国際学術交流」

ア　今年度前期の研究集会参加の応募は8名となった．

イ　募金額が2,000万円に達した．

「AGU」

4月11日金沢で開かれた Planning meeting の報告が理事長からあった．主な内容は

期　日　1990年8月21～25日
場　所　金沢市
論文締切は1990年2月ごろ

気象学会としては負担金について検討する必要がある．

B．審議事項

1. 会員の新規加入
新規加入個人会員22名，退会8名が承認された．

2. 委員の交替について
次の委員の異動が承認された．

「天気」

旧委員

| | |
|---|---|
| 繰野　年之 | 気象衛星センター |
| 茶円　俊彦 | 気象庁産業気象課 |
| 松本　逸平 | 気象庁予報課 |
| 栗原　和夫 | 気象庁数値予報課 |
| 川間田正宏 | 東京管区気象台 |

新委員

| | |
|---|---|
| 菊地　正 | 気象衛星センター |
| 山本　哲 | 気象庁産業気象課 |
| 海老原　智 | 気象庁予報課 |
| 馬場　厚 | 気象庁数値予報課 |
| 小司　禎教 | 東京管区気象台 |
| 石原　正仁 | 気象研究所 |
| 新野　宏 | 気象研究所 |

「気象集誌」

新委員　丸山　健人　気象研究所

3. 大会プログラムの問い合わせについて
講演企画担当理事より，今年度の春季大会のプログラム内容について，「天気」などに発表する前に問い合わせがきているとの報告があり，どう対処すべきか検討した結果，プログラム原稿の最終校正の後なら，問い合わせに答えてよいことになった．

4. パソコン通信について
気象集誌担当理事より「気象集誌」原稿の授受と学会会員および会員相互間の情報交換のための「電子掲示板」を設けるめた，パソコン通信を開設したいとの提案があり，承認された．
気象集誌の印刷業者にシステムオペレーターを委託し，気象集誌編集委員会が当面指示を出す

ことになった.

5. 平成元年度事業計画案・予算案
一部修正された.

6. 第25期第3回理事会の議題について
審議の結果次のとおり決まった.
1. 昭和63年度事業報告および決算報告
2. 平成元年度事業計画案および予算案案
3. 「山本・正野論文賞」の設立について
4. 定款の細則「各賞受賞者選定規定」の改正
5. 国際学術交流事業基金の今後の方針について
6. 1990 AGU について
7. 1993 IAMAP について
8. ICS/WMO JSC FOR WCRP の後援について
9. 平成2年度の気象学会大会の開催地について

---

**編集後記**：最近，気象関係の話題が度々新聞紙上を賑わしています.「地球温暖化問題」や「オゾン層保護」などのニュースは，科学面や社会面のみならず，時には第一面に載ることさえあります. 他にも「酸性雨」や「砂漠化」など，話題には事欠きません.「地球環境問題」が，今年のサミットの主要議題に取り上げられるまでになりました. 数年前には考えられなかった事態です. 先日も気象庁から「異常気象レポート '89」が発行されましたが，これに関連して運輸大臣が記者会見を行い，気候問題に関する運輸省の構想を発表しています. このレポートは，大蔵省印刷局から発行されている白書類の中のベストセラーで，5年前の前回のレポートが約300頁，今回のものが430頁以上と，厚さも大気中の $CO_2$ と歩調を合わせて確実に増加傾向にあります.

行政側の政策としても，通産・運輸・文部・環境・科学技術などの各省庁が，「地球環境問題」は自分の所の所管事項であるとばかりに，研究所を設立したり，組織を改変したり，予算獲得に走り回ったりと大変な騒ぎです. このような「地球環境ブーム」がいつまで続くのかはっきりしませんが，世界経済の状況が変わればこのようなブームはすぐに去ってしまうでしょう. 行政的には一つのアクションを起こせばそれで良いのかも知れませんが，「地球環境」のような問題は，息の長い地道な観測・データの蓄積と研究が必要で数年の特別研究だけで結論が得られるものでもありません. しかし現実には，即効的な対応策や早急な結論を求められるような傾向にあるのは残念なことです. 気象関係でこのような大型研究計画が次々と立案・実行されることは初めてのことで，いよいよ気象学も巨大科学の仲間入りをしたということかもしれません. いずれにしても，今こそ日本の気象研究者の，研究計画の立案・実行・進行管理に対する力量が試される時です. そういう意味で，ここしばらくは気象関係者にとって正念場が続くことになります.

このような世の中の動きに対応して「天気」誌上にも，「地球環境」に関する解説を掲載したいと考えています. ぜひ会員各位の投稿をお待ちしています. また，「地球環境問題」は学際的な問題であり，関連する学会も多岐にわたっていますので，「情報ファイル」の欄を充実すると共に，従来は気象学会が主催あるいは共催するものに限って掲載しています本誌の関連学会行事予定表の欄を拡充し，関連する学会，例えば海洋学会・大気汚染学会・農業気象学会などの大会の予定についても掲載したいと考えています.

(T. F.)

---